

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo 1.7 2006年3月号

3月になって暖かい日が増えてきました。もうすぐ冬も終わりかなと感じられるようになってきましたね。

わたしたちの事務所の前には旭川市が設置した融雪溝があり、おかげさまで雪の捨てる場所には困りません（たまにつまって使用禁止になることがあります）。この融雪溝、住所によって使用できる時間が指定されています、わたしたちのところは午前6時から午前8時までと、午前10時以降は終日となっています。午前10時以降は仕事が始まっていますし、午前8時から午前10時までには使用できないわけですから、除雪の勝負は午前6時から午前8時のあいだです。

わたしたちの事務所がある2条14丁目というところは昔の商店街でありまして、ご高齢の方が多く住んでいるところです。ご高齢の方というのは一般的に朝が早いものです。冬の朝6時という外はまだ真っ暗ですが、寝室で寝ているわたしの耳に

「ざく、ざく・・・」

という除雪をしている音が聞こえてきます。その音が目覚ましがわりとなって起きるわけですが、起きてすぐ除雪はできません。そこで新聞などを読んで目を覚ますようにしますが、外はまだ真っ暗ですから照明をつけないと新聞を読めません。ところが、家の照明を明るくすると起きてることがバれてしまいますので、照明はごく暗めにして新聞を読みます。そうしてなんとか目を覚まして外に出ますと、お隣の方がわたしたちの敷地のところまで除雪をしてくださっていたりします。いつも大変感謝をするとともに、本当に申し訳なく思ってしまう瞬間です。

わたしたちのご近所の方は、みなさん本当にお元気です。80歳を超えている方も多いのですが、除雪のスピードとパワーには圧倒されてしまいます。融雪溝は朝6時からの使用となっているはずですが、朝6時にはすでに除雪が終わっているところもあります。また、真冬でも地面が出ているところもあります。わたしたちももう少し早く起きられればいいのですが。

それにしても、ご近所のみなさんはいったい何時から除雪を始めているのでしょうか・・・。

